

平成30年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	プロジェクト1 (Project1)		授業コード	L120101
担当教員名	池畑 義人、園田 一則、島岡 成治、杉浦 嘉雄、近藤 正一、吉村 充功、高見 大介、濱永 康仁		科目ナンバリングコード	L11201
配当学年	1	開講期	通期	
必修・選択区分	コース選択必修 全コース(2017年度以降) 環境・地域コース 選択 建築コース インテリアデザインコース	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	集中講義なので、開講日時に気をつけてください。 フィールドワークは週末に行います。また、夏期休業期に1泊2日のフィールドワークを実施しますので、参加できることを確認して履修して下さい。 履修者数が多いことが予想されるため、クラス分けを行う予定です。クラスによりフィールドワークの日程が異なりますので注意してください。			
受講心得	フィールドワークでは団体行動が基本です。教員・現地指導員の指示に必ず従ってください。 地域の皆さんは、この実習にあたって大変な負担を負っています。皆さんのために、いろいろして下さる地域の皆さんに感謝しながら受講してください。			
教科書	なし			
参考文献及び指定図書				
関連科目	プロジェクト2、プロジェクト3、地域再生論			

授業の目的	地方の今後のあり方を考えた場合、地域の独自性や特徴を活かした地域づくり・まちづくり、地域にあった建築物の設計・施工、歴史遺産や環境の保全・再生が重要となります。本演習では、大分県の基幹産業である農林水産業を中心とした地域や伝統文化を守る祭の実態を現場見学・体験とワークショップを通じて肌で感じ、地域が直面する課題や問題点を正しく認識することで、建築学において必要になる地域づくりや地域再生のための計画立案に向けての基礎知識を習得すること、そのための感性を養うことを目的とします。
授業の概要	大分県内各地の農林水産業の現場を見学・研修し、実際に農業、林業、水産業体験やその集落の営みを観察するフィールドワークを実践的に実施します。また、大分県の文化である竹を活かした灯籠を使用した地域の祭に参加します。見学・体験・実践した地域及びフィールドから学び取ったこと、感じたことをまとめ、地域での生活・文化と生業の現状について理解を深めるグループディスカッションを行います。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：ガイダンス 授業内容・スケジュールの説明、受講条件、クラス分けなどについて説明します。	
第2週：第1回事前研修 第1回現地研修に先立って、研修の意義を理解するワークショップを実施します。また、事前レポートを課し、知識の整理を行うとともに、目標設定を行います。	地域の抱える課題に関する調査課題を課します(4時間)。ワークシートは後日返却します。
第3週：第1回研修【地域環境維持活動と交流会】-1 これから、3回の授業では豊後大野市大野町「ふるさと体験村」及び周辺地域／大分市佐賀関半島周辺地域に分かれて、地域環境維持活動を行います。この時間は、グループに分かれて諸注意を受け、現地の方のお話を聴きます。	

<p>第4週：第1回研修【地域環境維持活動と交流会】-2</p> <p>現地の田畑や山林等で作業を体験します。作業の内容は、天候などによって異なりますが、大野町班は主にイノシシなどの害獣から田畑を守るための作業や草刈り、樹木の間伐など、佐賀関班は観光交流人口を拡大する環境整備のための草刈りや作業等を行います。</p>	
<p>第5週：第1回研修【地域環境維持活動と交流会】-3</p> <p>作業の残りを実施するとともに、終了後は作業をふり返りながら、反省点などを話し合います。</p>	
<p>第6週：第1回事後研修</p> <p>第1回の研修で得たことをグループディスカッションでまとめます。また、次回の研修に向けた改善点をまとめます。レポートを課し、振り返りを行います。</p>	<p>第1回研修の反省と課題を明確にする(4時間)。ワークシートは後日返却します。</p>
<p>第7週：第2回事前研修-1</p> <p>第2回研修は鶴崎清正公23夜祭での参道を彩る竹灯籠等の展示、城下町杵築観月祭での竹灯籠等の展示を2グループに分かれて実施します。第2回研修に先立ち、知識の整理を行うとともに、研修での目標設定、出展準備を行います。</p>	<p>地域の抱える課題に関する調査課題を課します(4時間)。ワークシートは後日返却します。</p>
<p>第8週：第2回事前研修-2</p> <p>前回に続き、竹灯籠の出展準備を行います。</p>	<p>時間外でも出展の準備を行い、展示の品質を高めてください。</p>
<p>第9週：第2回事前研修-3</p> <p>前回に続き、竹灯籠の出展準備を行います。</p>	<p>時間外でも出展の準備を行い、展示の品質を高めてください。</p>
<p>第10週：第2回研修【地域の祭での竹灯籠等出展活動】-1</p> <p>鶴崎清正公23夜祭での参道を彩る竹灯籠等の展示、城下町杵築観月祭での竹灯籠等の展示を2グループに分かれて現地で行います。</p>	
<p>第11週：第2回研修【地域活動成果発表と交流会】-2</p> <p>引き続き現地で行います。</p>	
<p>第12週：第2回研修【地域活動成果発表と交流会】-3</p> <p>引き続き現地で行います。</p>	
<p>第13週：第2回事後研修</p> <p>第2回の研修で得たことをグループディスカッションでまとめます。また、レポートを課し、振り返りを行います。</p>	<p>第2回研修の反省と課題を明確にする(4時間)。ワークシートは後日返却します。</p>
<p>第14週：第3回事前研修</p> <p>第3回の現地研修からは、再び豊後大野市大野町「ふるさと体験村」及び周辺地域／大分市佐賀関半島周辺地域に分かれて、地域環境維持活動を行います。次回の研修に先立って、事前レポートを元に、知識の整理を行い、研修での目標設定を行います。</p>	<p>地域の抱える課題に関する調査課題を課します(4時間)。ワークシートは後日返却します。</p>
<p>第15週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-1</p>	

これから10回の授業では、第1回研修と同じ現地においてチームに分かれ、農業・林業体験や観光交流人口拡大のための地域環境維持活動研修等のフィールドワーク及び地域の方との交流会を1泊2日を実施します。宿泊形式をとることで、集団生活を通じたこころの力や社会人基礎力を育成するとともに、地域の良さや課題を実体験します。この時間は、諸注意を聞くとともに、自分の設定した目標を再確認します。

第16週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-2

現地作業を通じて、役割分担やチームビルディングについて再確認します。

第17週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-3

現地指導者の指導のもと、グループに分かれて地域環境維持活動(草刈りや農業体験、間伐等)を行い、地域の生活の現場を理解します。

第18週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-4

引き続き現地活動を実施します。

<p>第19週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-5 受講者全員で食事の準備をして、役割分担の重要性を理解するとともに、交流をします。地域の食材を使用し、地産地消の意義を理解します。</p> <p>第20週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-6 現地の人から地域の昔の様子や現在置かれている状況について講演を受けます。また、地域の方々との交流会を企画、実施します。</p> <p>第21週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-7 宿泊研修2日目の授業になります。地域の生活を体験するため周辺を散策するとともに、朝食づくりでチームの役割分担を再確認します。</p> <p>第22週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-8 前日とは異なる作業や地域環境維持活動を体験し、更に幅広い知識を習得します。</p> <p>第23週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-9 引き続き地域環境維持活動等を体験し、知識とスキルの定着を図ります。</p> <p>第24週：第3回研修【地域環境維持活動と交流会(1泊2日)】-10 これまでの2日間の実習で学んだことをふり返り、地域の方々に感謝の気持ちを伝えます。</p> <p>第25週：第3回事後研修 第3回の研修で得たことをグループディスカッションでまとめます。また、次回の研修に向けた改善点をまとめます。また、レポートを課し、振り返りを行います。</p> <p>第26週：第4回事前研修 秋の現地研修に先立って研修での目標設定を行います。また、レポートを課し、知識の整理を行います。</p> <p>第27週：第4回研修【地域環境維持活動と交流会】-1 これから3回の授業では、第1、3回研修と同じ現地においてチームに分かれ、秋の実習を行います。この時間は、グループに分かれて諸注意を受け、現地の方々のお話を聴きます。</p> <p>第28週：第4回研修【地域環境維持活動と交流会】-2 現地の田畑等で作業を体験します。作業の内容は、天候などによって異なりますが、主に収穫体験や出荷作業の準備／観光交流人口拡大のための現地作業などを行います。</p> <p>第29週：第4回研修【地域環境維持活動と交流会】-3 作業の残りを実施するとともに、終了後は作業をふり返りながら、反省点などを話し合います。</p> <p>第30週：第4回事後研修と総括 事後レポートを作成し、第4回の研修で得たことをグループディスカッションでまとめます。また、本授業で得たことの整理を行い、本授業をまとめます。</p>	<p>第3回研修の反省と課題を明確にする(4時間)。ワークシートは後日返却します。</p> <p>地域の抱える課題に関する調査課題を課します(4時間)。ワークシートは後日返却します。</p> <p>第4回研修と本授業全体の反省と課題を明確にする(4時間)。ワークシートは後日返却します。</p>	
授業の運営方法	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	「共同担当方式」
	(3)アクティブ・ラーニング	「アクティブ・ラーニング科目」
地域志向科目	カテゴリー II：地域での体験交流活動を教育内容に含む科目	
備考	日程は第1回の授業時に連絡します。また、3回目以降の現地研修の日程は現地の方との調整で日時が前後する可能性がありますので、建築資料室前の掲示板等で確認して下さい。	

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	①環境や地域の問題に積極的に関わる
【知識・理解】	②大分県内における1次産業(農林水産業)の現状と位置づけを実体験を通じて理解する ③中山間地域と都市部(大分都市圏)の関係性、森里海のつながりを理解する ④コミュニティの重要性について理解する ⑤林業体験を通じて、建築材料の生産現場を理解する
【技能・表現・コミュニケーション】	⑥集団で行動でき、自分の役割を果たすことができる ⑦地域の皆さんに話を聴いて、質問をすることができる
【思考・判断・創造】	⑧新しい地域のあり方、地方創生について考えることができる

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		30点		
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。		20点		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。		30点		
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。		10点	10点	
(「人間力」について) ※以上の観点到、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等(提出物)	事前/事後研修において、レポート課題が出題されます。また、このレポートに関しては口頭試問も実施されます。これらの内容について、到達目標の観点から総合的に判断して評価を行います。
発表・その他(無形成果)	事後研修において、学修内容についての発表を行います。到達目標の観点から総合的に判断して評価を行います。